

## 所 長 ご 挨拶



国立駿河療養所（こくりつするがりょうようじょ）のホームページをご覧くださいありがとうございます。

国立駿河療養所は1945（昭和20）年に開所し、当初は第二次世界大戦時、戦地でハンセン病を発症した患者さんが入所していましたが、その後、国内で発病した患者さんが入所しました。

箱根山の外輪山の静岡県側にあり、標高約500mの丘陵地の療養所ですが、西側には秀麗富士山を望み、はるか南には駿河湾を望めます。

この療養所はハンセン病の既往症があり、高齢になり、後遺症があり、種々の病気を持っている方々が療養しています。2019（令和元）年5月1日現在、入所者は50名（平均年齢84.9歳）です。

ハンセン病は手足や顔面などの皮膚や神経などが侵される病気で、治療薬が無かった時代に病気が悪化し、後遺症を残しました。高齢になり、医療のみならず介護、看護が重要になり、認知症対策も重要で、入所者が安寧で生きがいのある生活を送れるよう職員一同努力しています。

所内には資料館（駿河ふれあいセンター）を併設していますので、是非、見学に来てハンセン病そして当療養所についての知識を深めてください。

令和 元年 5月 1日

国立駿河療養所  
所長 石井 則久